



2024年度各講座8回のうち、今月で前半が終了します。猛暑が予想される8月はゆっくり身体を休めていただいて、また9月に元気にお会いしましょう。

9月～12月の会場案内

を掲載しますのでご確認ください。

■時事問題講座

- 9月3日(火) 市民交流プラザふくちやま アトリエ
- 10月1日(火) 市民交流プラザふくちやま 4-1
- 11月5日(火) 市民交流プラザふくちやま 4-1
- 12月3日(火) 市民交流プラザふくちやま アトリエ

■寄席芸鑑賞講座

- 9月12日(木) 市民交流プラザふくちやま 視聴覚室
- 10月10日(木) 中丹勤労者福祉会館 4階大会議室
- 11月14日(木) 市民交流プラザふくちやま 視聴覚室
- 12月12日(木) 特別例会(別途案内)

■写真講座

- 9月17日(火) 市民交流プラザふくちやま 調理室
- 10月15日(火) 現地(別途案内 綾部日東精工アリーナ予定)
- 11月19日(火) 現地(別途案内 大江町総合会館予定)
- 12月17日(火) 市民交流プラザふくちやま 3-2

■歴史講座

- 9月18日(水) 与謝野町立古墳公園(別途案内)
- 10月16日(水) 舞鶴引き上げ記念館(別途案内)
- 11月20日(水) 市民交流プラザふくちやま 3-2
- 12月18日(水) 市民交流プラザふくちやま 3-2

■北近畿探訪講座

- 9月25日(水) 福知山公立大学 2号館1階コラボスペース
- 10月23日(水) 市民交流プラザふくちやま 3-2
- 11月27日(水) 長田野工業団地内企業(別途案内)
- 12月11日(水) 長田野工業団地内企業(別途案内)

★注 12月は第2水曜日です

■漢字学講座

9月19日(木) 市民交流プラザふくちやま 3-2

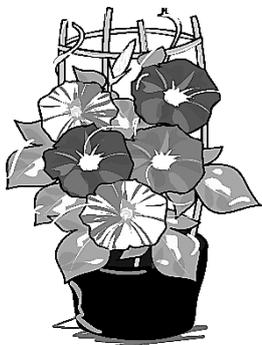
★注 当初予定9月26日から講師の都合により日程変更になっています

- 10月24日(木) 市民交流プラザふくちやま 3-2
- 11月28日(木) 市民交流プラザふくちやま 3-2
- 12月26日(木) 市民交流プラザふくちやま 3-2

■各講座とも

13:30～15:30です。

■会場によっては大変窮屈な状況が予想されます。より広い会場にキャンセルが出て変更する場合などあります。また現地開催講座などもありますので、受講生のみなさんには早めの案内を心がけますが、振替受講などの場合は特に、会場をその都度事務局にご確認ください。





◆時事問題講座 6月4日 「米軍基地と日米安保条約」 講師:石川康宏氏

日米安保条約の中での米軍基地の今日の現状を安保条約がつけられた歴史、理由から詳しくわかりやすく話をすすめられた。今起きている世界の数々の戦争や小競り合い等等、話が進んでいく中、幸いなことにどこの国々の国民も戦争や殺し合いは誰も根底から望んでいないこと、新たに独立した国々が世界の前面に出て「国家間の法の支配を促進するうえで国連憲章が最も重要であることを再確認する」が採択されたことや AOP など ASAN の力が世界に注目される。等の動きに少しの安堵感を持ちながら拝聴した。

私たちが子供、孫の世代にこの美しい日本を残さなければなりません。しかし、昨今、地球環境はいろいろな負の要員(温暖化、マイクロプラスチック汚染、温暖化による海水の上昇等等)を抱えています。医療分野、高齢化等の福祉分野などへも財政を注ぐ所は山ほどあります。全世界の莫大な軍事予算をこれらに回すような発想が起きないのだろうか。戦争や国土の奪い合いをしている時ではないだろう。主義、主張は違えども、人類の滅亡に向かっていっているとき、これを食い止めることに全世界が向かわなければなりません。

人類の平和の為、このようなことまで考えさせられる内容の有意義な講座でした。ありがとうございました。

安保条約から世界の中で日本が置かれている状況までよく分かった。アセアンの取り組みはとても参考になったし希望にもなった。

関心のあるテーマで大変勉強になりました。どうして日本はこんなにも戦争したがる国になってしまったのでしょうか。

◆寄席芸鑑賞講座 5月9日

「マジックについてのお話を聞きマジックを楽しむ」

講師:ミスタースキン氏

講師にマジシャンのミスタースキンさんをお迎えし、マジックの起源や歴史、特に 14 世紀の魔女狩りにまつわる話や、著名なマジシャンであるジャン・ウジェーヌ・ロベール＝ウーダン・サーストンらの紹介、エピソードを交えながら進行しました。

まずロープを使ったマジックを披露され、受講者の皆さんも参加して実演を行いました。その後ギロチン、お札、飲料水のボトルを使ったマジックを次々と披露され、ユーモア溢れるトークで会場は笑い声でいっぱい。マジックのタネを見破ろうと必死に凝視するのですが、トークの面白さに笑いが止まらず、手品の巧妙さに驚嘆するばかりでした。

講座中、ミスタースキンさんは受講者に話しかけたり、質問を受けたりとのやり取りも絶え間なく笑いに溢れ、あっという間に時間が過ぎました。タネ明かしは一切されませんでした。観客を惹きつけるコツやネタバレしないように気を逸らすテクニックについて、動作を交えて説明していただきました。さらに、手品の材料や入手先についても興味深い情報を教えていただき、受講者の多くが宴会の余興としてマジックを試してみたいと思ったに違いありません。定番のトランプやハンカチを使った手品についても、その鮮やかさと離れた場所とのすり替え技に、受講者たちは「いつ?どうやって?」と驚きを隠せませんでした。簡単なカード遊びのマジックも紹介され、これなら自分でもできそうだと感じる一方で、魅力的なトークを交えることの難しさも皆さん感じられていた様です。



実技講習をやってほしい。話術がすご〜い!!

楽しい話を聞きながらマジックをたっぷり見せてもらい満足です。タネをさがそうと思って見ましたが、全然分かりませんでした。「なんでやねん?」と思う時間がいっぱい。



◆写真講座 5月21日

「その瞬間を撮る」—動きの速い子ども— 講師:四方智基氏

梅雨に入るのか入らないのか、午前中に雨は上がったけれど屋外での撮影は無理かな、と考えていましたが、現地に行くと遊具も乾いていて撮影 OK。しかしお願いしていた子どもモデルさんが発熱で2人お休みとなりました。参加してくれた2人の元気な動きに、受講生たちはついていくのが大変。先に座学で確認したシャッタースピードと感度と絞りの関係を思い出しながら、設定を確認しているうちに子どもはどっかへ行ってしまっ…追うのは大変。じっと待って、子どもが滑り台を滑ってくるのを待ちます。ピントを素早く合わせるのも難しいです。連写やモニターを動かしての撮影など、子どもの動きに合わせたテクニックも学びました。最後にモデルちゃんがこけて膝を擦りむき大泣きで、撮影会は終了しました。付き添ってくださったパパママもありがとうございました。

連写機能を使って鳥の飛び立ちなど、狙ってみたい。



子どもの動きを追うだけで疲れました。連写でシャッタースピードを速くして撮るのですが、何が撮れているのかわからなくなりました。何とも難しいですね。



◆歴史講座 6月19日

「インドシナの大国としてのベトナムの歴史」 講師:向井啓二氏

「ベトナム」というとベトナム戦争のイメージが強いが、古くからある国である。漢の征服以後中国の支配下にあったが、10世紀に独立し李朝から阮朝まで諸王朝が栄えた。16世紀にはホイアンに日本人町がつくられ繁栄したという。文化的には大乘仏教やチュノムという独自の漢字など中国の影響が強く見られる。

1884年の清仏戦争で清が敗れると、フランスが新たな宗主国となり、カンボジアを併せて仏領インドシナ連邦を形成して後にはラオスも加えた。これに対して、日露戦争後にはファン・ボイ・チャウが日本に学べというトンズー（東遊）運動を開始し、第一次大戦後の1930年にはベトナム共産党が結成されるなど独立運動が芽生え始める。第二次大戦中には日本軍が進駐し、1940年に北部仏印、翌年には南部仏印が占領された。

45年前、世界史の授業は苦手でした。今になって毎日の様に報道される世界中での紛争を目にするとそれぞれの国の歴史を知ることが大切だと感じました。

地球人としての歴史教科書があれば戦争や紛争が避けられる可能性が出てくるのでしょうか。

日本の敗戦後の1945年9月2日、ベトナム共産党のホーチミンがベトナム民主共和国をハノイに樹立した。フランスはこれに対抗して傀儡政権をつくってホーチミンと激しい内戦を展開した（インドシナ戦争）。1954年ジュネーブで休戦協定が成立し、その後17度線を境に南北が分離して南にベトナム共和国が成立した。この南ベトナム政府に軍事援助を与え続けたのがアメリカである。

1960年に南ベトナム解放民族戦線が結成され反米・救国の武装闘争が拡大すると、これが「ベトナム戦争」へとエスカレートしていった。アメリカは1965年に北爆を開始し、その後も大量の人的・物的戦力を投入して枯葉剤散布など非人道的な攻撃も行われた。結局1973年のパリ和平協定で米軍が撤退し、1976年には南北が統一され「ベトナム社会主義共和国」が生まれた。

その後のベトナムはドイモイ（刷新）政策を打ち出し、アメリカとの国交を正常化したほか、ASEAN・APEC・WTOなどに次々と加盟してめざましい経済発展を遂げた。さらに国連安保理の非常任理事国をつとめるなど存在感をますます強めている。

◆漢字学講座 5月23日

「音読みと訓読み」 講師：久保裕之氏

難解な内容を紙芝居を使ってわかりやすく説明いただけで良かった。

音：漢字の入ってきた当時の中国語の発音を日本人が真似たもの

訓：日本語として存在していた語を漢字の読みとしてもあてはめたもの

漢字が来る！ 山は中国では「サン」、日本では「やま」という。そうだ日本ではサンともやまとも呼べばいい。これを中国から帰ってきた留学生と日本の朝廷との会話というドラマ仕立てで講義されました。

- ・呉音（一番古い）/4～6世紀ころ…呉から百済に伝わり日本に入ってきた。奈良時代に遣隋使や留学僧が長安から漢音を学び持ち帰る以前にすでに日本に定着していた漢字音
- ・漢音/7～9世紀ころ…7・8世紀、奈良時代後期から平安時代の初めころまでに、遣隋使・遣唐使や留学僧などにより伝えられた音
- ・唐音/10世紀ころ…鎌倉時代以降に中国から入ってきた字音

音読みがたくさんあるのはなぜ？/中国の漢字の読み方が時代によって変わった。例えば明は、呉音では（ミョウ）、漢音では（メイ）、唐音では（ミン）となる。

音読みがたくさんある理由/①中国語がなまってはいった。そうは聞こえなかった。またはそう聞こえても表記の仕様がなく、別の表記とした。②長い年月の間に中国での音が変化した。③方言音が入った。例）餃子は方言

送り仮名/漢字は中国語を表すために作られた文字。日本語を書き表すために、漢字だけでは伝わらない文字を付け足したもの。

ex 高さ（たかさ）高まり（たかまり）高める（たかめる）

熟字訓/日本語の一つの言葉（訓）を2字より多い漢字で表す言葉

今日（コンニチ）＝今（コン）＋日（ニチ）

当て字/漢字の音（読み方）を意味とは関係なく使って表した言葉

出鱈目（でたらめ） 珍紛漢紛（ちんぷんかんぷん）

中国は、時代により読み方を変えたが、日本はほとんどを受け入れた。これだけ複雑な日本語を話せるのは私たちが幼いころより慣れ親しんでいるからである。

中身と表現の仕方を「文化」としてすべて受け入れてきた日本の姿が「漢字」と日本人の中によく表れている。今も外来語をどんどん受け入れそれを消化していく「日本」はおおらかなのか独自性が弱いのか国民性という言葉がお話を聞きながら頭をよぎる面白い講座でした。

他の参加者との講座
に関する会話も楽しかった

なかなかハードな企画。地球の歴史を体感する鍾乳洞見学、露頭する石から学ぶ楽しい企画でした。

40年来、見学したいと思うもできなかった。ついに目的を達成することができました、光の当たっているところに「コケ」が生えていることに感動。帰ってから化石を見つけます。



◆北近畿探訪講座 5月22日

「質志鍾乳洞で太古の海底火山の跡を探る」 講師：小滝篤夫氏

今回の現地見学は、綾部市方面からは2つの峠を越えての会場となり、お疲れさまでした。国道173号線は思ったよりトラックの往来が多く、緊張の運転を強いられたことと思います。

質志鍾乳洞は、もととなった地質は南の火山島から海洋プレートによって運ばれてきたものであることを説明してもらいました。鍾乳洞を形成しているものは石灰岩で、この石灰岩は南方のサンゴ、貝などが堆積してできたものということです。やがて、この地での水などの浸食により鍾乳洞という空洞になっていったということでした。洞内では多量の水が流れていたと思われる痕跡も見られました。洞への途中では、火山から噴出の緑色岩やサンゴ礁からの石灰岩などの観察をしながらの講義でした。小滝先生が持参された希硫酸系の試薬を岩石に垂らし石灰岩と他の岩石の違いを見せてもらいながらの道中となりました。鍾乳洞の内部は、入洞した時は外気との温度差もあり寒さを感じるくらいでした。内部は、第二次世界大戦前にはすでに盗掘のせいか鍾乳石は存在していなかったのが残念でした。洞の中では雫があちこちで滴り落ちていましたが、これが鍾乳石などを再び美しく形作るのは何万年後（？）になるのでしょうか。

